

おおさかタイムライン防災プロジェクト



タイムラインとは

大規模な災害から住民の命を守り、被害を最小化することを目的に防災関係機関が連携して災害時に発生する状況をあらかじめ想定し、「いつ」「誰が」「何をするか」に着目して防災行動とその実施主体を時系列に整理したもの。

プロジェクトの概要

大阪府では、タイムラインを以下の3つに分類し、先行取り組み（リーディングプロジェクト）を実施。これらの先行事例をモデルとして、洪水や土砂災害、高潮災害など様々なハザードを対象に、国や市町村と連携し大阪府全域にタイムラインの作成と活用を拡げていく、「おおさかタイムライン防災プロジェクト」を進めている。

広域タイムライン 5/5地域 <寝屋川流域、神崎川・安威川流域、南河内地域、大津川流域、大阪湾（泉州）高潮>

比較的大きな流域を対象として、行政機関に加え、ライフライン事業者、鉄道事業者など多くの防災機関の防災行動を記載したもの。国や府が主体となって関係する防災機関とともに作成。

市町村タイムライン 34/43市町村

一つの市町村を対象として、市町村の各部署の防災行動を記載したもの。市町村の各部署が参画し、作成。

コミュニティ（地域）タイムライン 18市町村、63地区

自治会などの小さな区域を対象として、住民や自主防災組織などが行う防災行動を記載したもの。市町村と地域住民がリスクコミュニケーションを図りながら作成。

課題と対応

タイムライン分類	課題	対応
広域	<ul style="list-style-type: none"> ●タイムラインを活用した訓練の実施 ●タイムラインの改善 	<ul style="list-style-type: none"> ●全てのタイムラインで訓練を実施 ●実際の水害対応を踏まえ、改善を実施
市町村	<ul style="list-style-type: none"> ●全市町村でのタイムライン作成 ●タイムラインの活用、改善 	<ul style="list-style-type: none"> ●市町村への作成の働きかけ、支援 ●実際の水害時の活用、ふりかえり、改善を実施
コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ●地区数が多く作成が十分に進んでいない ●ノウハウが十分でない場合がある ●優先的に作成の対象とするリスク（土砂・洪水）の明確化 	<ul style="list-style-type: none"> ●事例集の活用等により横展開 ●講師、ファシリテーターの派遣支援 ●地区単位ハザードマップ作成済地域での作成促進

これまでの取り組み

キックオフ

平成29年3月
おおさかタイムライン防災プロジェクトシンポジウム



神崎川流域

令和3年9月
策定・運用開始

リーディングプロジェクト

貝塚市旭地区 高潮タイムライン

平成29年3月
策定・運用開始



大阪湾沿岸（泉州）高潮

令和2年8月
策定・運用開始

安威川流域

令和元年9月
策定・運用開始

リーディングプロジェクト

寝屋川流域

平成30年8月
策定・運用開始



南河内地域（石川流域外）

令和2年3月
策定・運用開始

リーディングプロジェクト

河南町 土砂災害タイムライン

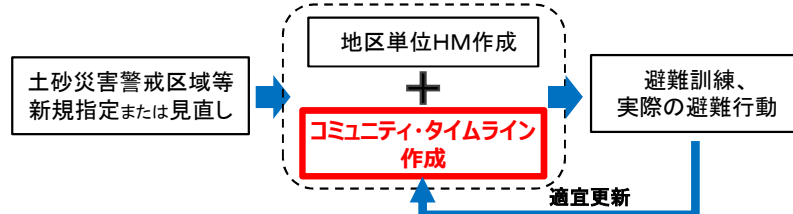
平成30年6月
策定・運用開始



今後の展開

広域タイムラインについては、訓練未実施の2流域における訓練の実施、市町村タイムラインについては、未作成の9市町での完成、コミュニティタイムラインについては、未作成の市町における作成を目標とし、府は引き続き必要な支援を実施する。

特にコミュニティタイムラインについて、**土砂災害は洪水と比較し、リスクの範囲が限定され、地域単位で避難計画を作成することが有効であるため、土砂災害警戒区域等の新規指定又は見直しを行った箇所や、これまで地区単位ハザードマップ作成済の地域**に対し、重点的にコミュニティタイムライン作成の取組を拡げていく。



コミュニティタイムライン作成状況



令和5年度 おおさかタイムライン防災プロジェクトの取組について

◆広域タイムライン

- ・令和3年度に府内全ての広域タイムラインの策定が完了し、タイムラインの運用を実施（寝屋川流域、神崎川・安威川流域、南河内地域、大津川流域、泉州高潮）
- ☞ 出水期、台風期に備えて訓練の実施をお願いします。
- ☞ 引き続き、訓練や運用のふりかえりを行い、適宜タイムラインの見直しをお願いします。

◆市町村タイムライン

- ・策定状況：34/43市町村 未策定9市町
- ☞ 令和5年度中に、未策定のタイムラインの完成をお願いします。
- ☞ 引き続き、訓練や運用のふりかえりを行い、適宜タイムラインの見直しをお願いします。

◆コミュニティタイムライン

- ・策定状況：令和4年度末までに18市町村、63地区で作成済み
- ☞ 地区単位ハザードマップ（土砂災害）作成済みの箇所や、土砂災害警戒区域等の新規指定、範囲の見直しを行った箇所、訓練を実施している箇所等を重点に、作成の取組をお願いします。
- ☞ 土砂災害警戒区域等の指定箇所がない市町では、洪水リスクに対するタイムラインの作成をお願いします。
- ☞ 令和5年度中に、全市町村において少なくとも1地区で策定できるように、新たな作成地区の選定をお願いします。

地区単位ハザードマップ



コミュニティタイムライン

気象の状況	気象情報	避難情報	自治会・住民の行動
台風が接近する2～3日前 テレビやラジオのニュースで台風情報が放送始める。	台風に関する情報		<ul style="list-style-type: none"> テレビ、ラジオ、インターネット等で台風情報入手する 非常時対応などを学ぶ 避難場所をあらかじめ確認しておく（ハザードマップを確認） 高齢者などに注意を促す
大雨の半日～数時間前 現在は雨が降っていないが、風が強くなり徐々に雨が降り始め、流さる危険がある。	【警戒レベル2】 大雨・洪水・強風 注意報発表		<ul style="list-style-type: none"> テレビ、ラジオから気象情報入手する すぐに避難できるよう、身の回りを整理し準備する 落下物や閉戸などをしめる 緊急連絡網などで、自治会（自主防災組織）から連絡
大雨の数時間～2時間程度前 雨・風が一層強くなる。	【警戒レベル3】 大雨・洪水・暴風 警報発表	高齢者等避難	<ul style="list-style-type: none"> 避難に時間がかかる人は避難を開始する すぐに避難できるよう、身の回りを整理し準備する 心配な場合は避難をする
	【警戒レベル4】 土砂災害警戒情報	避難指示	<ul style="list-style-type: none"> 速やかに避難をする 避難所から家族などに連絡をとる
広い範囲で数十年に一度大雨が降る	【警戒レベル5】 大雨特別警報	緊急安全確保	<ul style="list-style-type: none"> 避難を完了する 避難所から家族などに連絡をとる 自治会（自主防災組織）の連絡網を活用し、避難し滞っている人がいないか確認する 相互に避難所での生活を支援する

● R5年度スケジュール

5～6月：市町村との作成方法の確認、実施調整

6～8月：対象地区の選定、地元との実施調整

9月～：作成着手